

令和6年度 第2回大船渡市地域医療懇話会

通院に係る移動手段について

～大船渡市による交通サービスの現状～

大船渡市商工港湾部企業立地港湾課

令和7年2月5日

本日の内容

1. 市内の公共交通の現状
2. 国や他市等の動向
3. 公共交通を維持していくために

1. 市内の公共交通の現状（公共交通機関）



①大船渡線BRT
(JR東日本)



③路線バス
(岩手県交通)



②リアス線
(三陸鉄道)



④デマンド交通
(日頃市地区)



④デマンド交通
(末崎地区)



④デマンド交通
(越喜来地区)



⑤タクシー
(市内全5社)

1. 市内の公共交通の現状（公共交通機関）

- ▶ 市内には、JR東日本BRTや三陸鉄道、路線バス、タクシーなどの公共交通機関が運行されています。
- ▶ これらは通勤・通学・買い物、通院などで利用する皆さんにとって、日常生活に欠かせない交通手段です。
- ▶ 市では、公共交通を維持・確保するため地域公共交通計画（期間：R4～R7年度）を策定し、地域の実情に応じた各種交通施策に取り組んでいます。
- ▶ しかし、人口減少やマイカーの普及、通学の送迎等により公共交通の利用が著しく減少しています。

1. 市内の公共交通の現状（JR大船渡線BRT）

気仙沼から盛駅間の1日1キロ当たりの通過人員

平均通過人員	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
気仙沼～盛駅	314	276	254	272	274	198	202	183	207

H27から
▲34.1%

市内各駅における通過人員

駅 別	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
盛	272	248	222	220	226	171	173	135	160
田茂山					6	11	9	12	16
地ノ森					7	14	10	9	17
大船渡	56	59	62	66	71	46	56	48	66
大船渡魚市場	8	10	10	11	6	5	3	7	6
下船渡	29	26	23	22	20	15	13	13	20
大船渡丸森					8	5	9	4	2
細浦	29	26	23	22	20	11	18	16	20
碁石海岸口	32	29	24	24	28	23	24	25	28
合 計	426	398	364	365	392	301	315	269	335

H27から
▲21.4%

1. 市内の公共交通の現状（三陸鉄道）

市内各駅の乗降人員

駅 別	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6.10月
盛 駅	67,662	58,348	57,763	57,193	72,320	45,125	47,257	46,174	46,094	32,281
陸前赤崎駅	916	1,112	775	679	1,599	1,766	1,505	1,629	1,046	361
綾里駅	17,232	18,833	21,693	20,363	20,336	18,306	17,014	18,469	9,636	6,132
恋し浜駅	1,392	1,588	1,315	1,196	1,315	1,446	1,092	3,565	1,980	1,053
甫嶺駅	2,952	3,685	2,995	3,112	3,730	2,133	2,568	2,678	2,188	877
三陸駅	8,782	7,972	6,962	8,402	7,209	6,677	6,554	5,403	4,083	2,872
吉浜駅	5,533	3,383	5,780	7,742	4,601	6,597	6,768	6,861	4,689	1,909
合 計	104,469	94,921	97,283	98,687	111,110	82,050	82,758	84,779	69,716	45,485

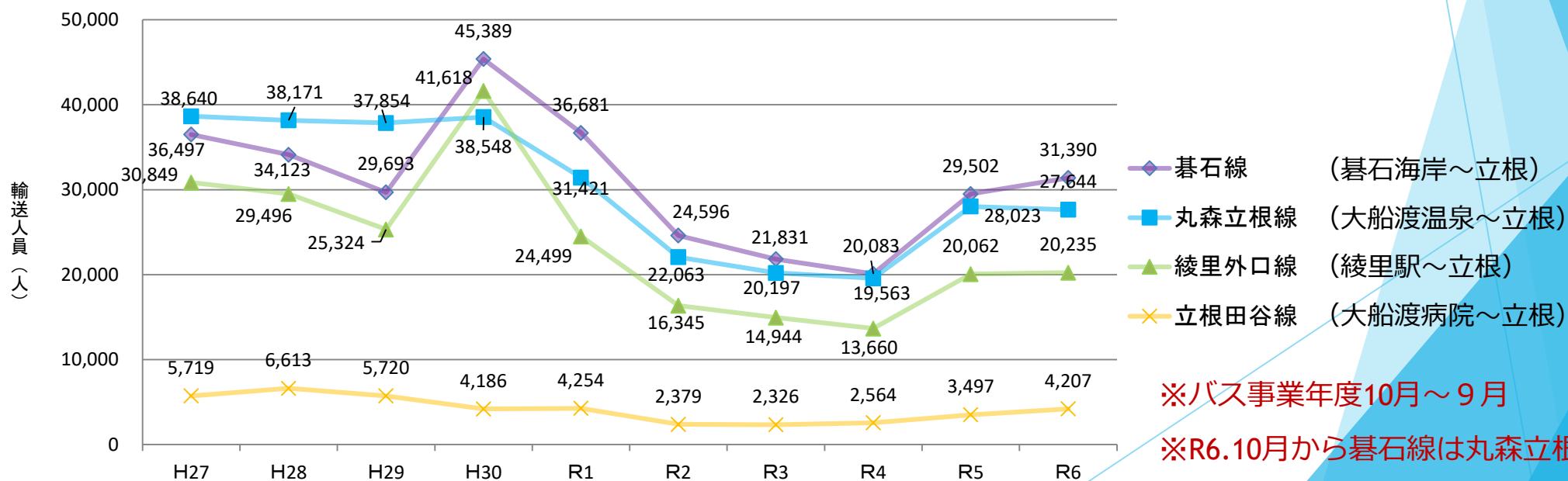
H27から 前年同期比
▲33.3% 3.0%増

1. 市内の公共交通の現状（市内路線バス）

輸送人員

※路線廃止代替バスとして路線の赤字分を補助し県交通が運行している路線

路線名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
碁石線	36,497	34,123	29,693	45,389	36,681	24,596	21,831	20,083	29,502	31,390
丸森立根線	38,640	38,171	37,854	38,548	31,421	22,063	20,197	19,563	28,023	27,644
綾里外口線	30,849	29,496	25,324	41,618	24,499	16,345	14,944	13,660	20,062	20,235
立根田谷線	5,719	6,613	5,720	4,186	4,254	2,379	2,326	2,564	3,497	4,207
合 計	111,705	108,403	98,591	129,741	96,855	65,383	59,298	55,870	81,084	83,476



1. 市内の公共交通の現状（デマンド交通）

- ▶市では、交通空白地域の解消及び路線バス廃止の代替交通として、「デマンド交通」を日頃市地区、越喜来地区、末崎地区で実施しています。

日頃市	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6.11月末
利用者数 (延べ)	214	483	535	487	597	815	839	795	989	619
事業費 (円)	572,010	1,148,570	1,312,950	1,130,260	1,337,420	1,549,340	1,575,600	1,605,960	2,114,960	987,470

越喜来	R3	R4	R5	R6.11月末
利用者数 (延べ)	129	338	224	217
事業費 (円)	423,550	1,052,030	699,250	418,230

対象地域：崎浜・下山・浪板地域

前年同期比
▲18.0%

末 崎	R6.10月	R6.11月	R6.11月末
利用者数 (延べ)	142	132	274
事業費 (円)	226,020	192,950	418,970

前年同期比
▲34.7%

R6.10月から実証実験運行開始

※デマンド交通は、平日のみの運行としており土日祝日は運休。土日祝日の主な運休理由は、通常のタクシー業務への影響に配慮したこと。

▶ デマンド交通とは・・・

デマンド交通とは、**地域の生活交通の確保と交通空白地域の解消**を図るため、地域内を運行する交通サービス手段の一つとなっています。

利用者からの予約に応じて、**10人乗り以下のタクシーで運行する相乗りタクシー**のことで、**路線バスとタクシー**の**中間**的な位置にある交通手段です。
主に2つの運行方式があります。

① 路線定期運行

- ・ 路線ルートを定め、予約された場合のみ、予約された停留所とルートのみ走行。
- ・ 路線バスやコミュニティバスと同様にバス停で乗降。

② 区域運行

- ・ **決められた区域内**で、予約のあった**利用者宅から決められた行き先間**を走行。
- ・ 利用者の**自宅まで**相乗りタクシーが**迎えに行く**。

※日頃市地区、越喜来地区、末崎地区で実施しているデマンド交通は、②の区域運行。

- ①は自宅からバス停まで歩かなければならないため、利用者の利便性を考え、②の区域運行を取り入れています。

▶交通空白地域とは・・・

交通空白地域とは、**一定距離**（大船渡市地域公共交通計画では、駅から1km以内、バス停から500m以内）に**駅やバス停などがない地域**としています。

公共交通（鉄道、BRT、路線バス、デマンド交通、患者輸送車、タクシースタンド配布）のカバーエリア内における公共交通カバー率の合計は、97.2%、交通空白地域率の合計は2.8%となっています。

交通空白地域率は、公共交通が対応していない区域の割合を示すもので、市内では、**綾里・越喜来・吉浜地区の一部が交通空白地域**となっております。

三陸地区では、一般の方でも無料で利用できる患者輸送車が運行しておりますが、地区全体ではなく、決まったルートのみを運行しているため、交通空白地域が存在しているという状況となっております。

なお、三陸町以外の地区については、地区全体を対象とした公共交通事業を実施しているため、交通空白地域とはしていません。

1. 市内の公共交通の現状（タクシーチケット）

- ▶市では、交通空白地域への移動手段対策の一環として、タクシーを利用した場合の料金の一部を助成しています。
- ▶75歳以上で運転免許証を持っていない方で、自宅から最寄のバス停又は駅まで300m以上離れている方が対象です。
- ▶デマンド交通を導入している地区、無料の患者輸送車を運行している三陸町地域については対象外としています。

チケット	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6.11月末
発行枚数	260	360	1,884	7,272	7,896	7,104	6,672	7,896	8,172	8,580
申請者数	34	83	106	303	348	312	315	367	402	433
事業費(円)	販売	販売	494,550	1,667,700	1,677,000	1,703,500	1,843,000	1,980,500	2,320,500	1,689,500

前年同期比
▲3.2%

1. 市内の公共交通の現状（市の負担額）

公共交通の維持に要する市の負担額（令和5年度）		（平成27年度）
○三陸鉄道	65,181千円	25,717千円
○岩手県交通	26,145千円	28,974千円
○その他交通サービス事業	5,135千円	572千円
（デマンド交通、タクシーチケット配布）	計 96,461千円	55,263千円
	74.5%増	

- 公共交通の利用者が減少すれば、交通事業者の収入が減るため、市では鉄道や路線バスを維持するために三陸鉄道や岩手県交通へ補助しています。



減収分の一部を市が負担する仕組みになっています。

1. 市内の公共交通の現状（全体）

- ▶ タクシーチケットの距離要件の緩和や、配布枚数の増加などの要望もあります。
- ▶ しかし、要件を緩和すれば、タクシー利用者や事業費が大幅に増えることになります。
- ▶ 一方、BRTや三陸鉄道、路線バスなどの公共交通の利用者が減少し、減少分の負担も増加する恐れがあります。
- ▶ したがって、財政面での負担も考慮しながら、地域の実情に合った交通サービスを提供していく必要があります。

2. 国や他市等の動向①

1. 地域公共交通の「リ・デザイン」とは

- ローカル鉄道・路線バスなどの**地域公共交通**は、地域の社会経済活動に不可欠な基盤。人口減少や少子化、マイカー利用の普及やライフスタイルの変化等による長期的な需要減により、**引き続き、多くの事業者が厳しい状況**。加えて、新型コロナの影響により、**一気に10年以上時間が進んだとの見方もあるほど深刻な状況**。
- こうした需要の減少は、交通事業者の経営努力のみでは避けられないものであるため、自動運転やMaaSなどデジタル技術を実装する「**交通DX**」、車両電動化や再エネ地産地消など「**交通GX**」、①**官民共創**、②**交通事業者間共創**、③**他分野共創**の「**3つの共創**」、すなわち、地域の関係者の**連携と協働**を通じて、**利便性・持続可能性・生産性**を高め、**地域公共交通の「リ・デザイン」**(再構築)を進める。
- これにより、『**デジタル田園都市国家構想**』及びこれを具体化する「**地域生活圏の構築**」の実現と、社会課題の解決を経済成長のエンジンとする『**新しい資本主義**』の実現を目指す。

交通DX

自動運転

地方公共団体が地域づくりの一環として行うバスサービスについて、実証事業を支援



▲茨城県境町の自動運転バスの運行

MaaS

交通事業者等の連携高度化を後押しするデータ連携基盤の具体化・構築・普及を推進



交通GX

交通のコスト削減・地域のCN化

車両電動化と効率的な運行管理・エネルギーマネジメント等の導入を一体的に推進



3つの共創

官民の共創

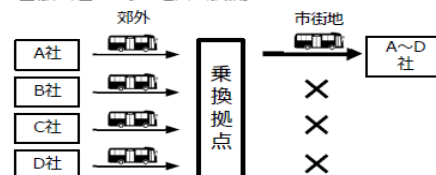
一定のエリアにおいて、地域でサービス水準を決定し、事業者が複数路線を一括して長期間運行

交通手段が重複 → ネットワークの統合 → エリア一括協定運行



交通事業者間の共創

複数の交通事業者が共同経営を行うことにより、垣根を越えたサービスを展開



他分野を含めた共創

地域交通と、様々な他分野との垣根を越えた事業連携を実現



2. 国や他市等の動向②

▶ 岩手県紫波町 AIデマンド型乗合バス「しわまる号」概要

- 利用対象 誰でも利用可能
- 運行区域 紫波町内全域
- 使用車両 ワゴンタイプ
平日4台、土曜3台、日祝2台
- 利用方法 電話又はスマートフォンで予約
- 乗車場所 ドアツードア方式（乗降場所設定可）
- 利用料金 1人500円（乗合の場合300円）
小学生以下200円（乗合の場合100円）



2. 国や他市等の動向③

▶ 岩手県矢巾町

予約型乗合バス「のりあい号」概要

- 利用対象 町民等で介助など必要ない方
- 運行区域 JR東北本線中心に東西エリア
- 使用車両 タクシー車両（普通車2台、大型車1台）
月～金曜日（土日12/29～1/3運休）
- 利用方法 電話で予約（30分前まで。当日朝の第1便
は前日までに予約。）
- 乗車場所 乗降所から乗降所までの移動
- 利用料金 1人500円、障がい者等400円
小学生以下300円



2. 国や他市等の動向④

▶ 岩手県陸前高田市

グリーンスローモビリティ「モビタ」概要

時速20km未満で走る、小型の電気自動車

- 利用対象 誰でも利用可能
- 運行区域 観光施設や商業施設、災害公営住宅や中心市街地を結ぶ循環ルート
- 使用車両 平日、土日祝日2台
- 利用方法 停留所から乗車
- 乗車場所 指定場所
- 利用料金 平日100円、土日祝日500円で乗り放題



3. 公共交通を維持していくために

- ▶ 公共交通を維持していくには、市民の皆さんの協力が必要です。
- ▶ 例えば、一番身近な“路線バスや三陸鉄道”を一人でも多くの方に利用していただくことが最も効果的な対策です。



おわりに・・・

- ▶ 今後ますます進む人口減少や、公共交通の利用者の減少等変化するニーズを捉え、
- ▶ 地域の実情に合った交通手段について、行政だけでなく、交通事業者や地域と一緒に考えて、
- ▶ 観光客の移動手段も含め、地域の皆さんが、買い物や通院等で気軽に外出できる環境づくりに向けて、
- ▶ 令和8年度からの次期「大船渡市地域公共交通計画」策定に取り組んでいきたいと考えています。

